

2025年度 事業報告

2025年4月1日から2026年3月31日まで

特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた

1.事業の成果

2025年度は、子ども・若者とその家族を取り巻く課題が一層複雑化するなか、「子どもと若者が安心して、自分らしく生きられる社会」の実現を目指し、相談支援、居場所づくり、食支援、子育て支援など、多面的な活動を展開しました。

若者支援では、生きづらさや孤立感を抱える若者たちが、不安や傷つきを感じることなく立ち寄れる敷居の低い居場所を継続して運営しました。また、子ども・若者食堂「みんなでつくたべ！」を通して、参加する若者が食事づくりや運営に関わり、自分の役割や居場所を実感できる機会を創出しました。

小中学生の居場所づくり「フリースクールよつば」は5年目を迎え、学校や関係機関と連携しながら、一人ひとりの思いやペースを大切にした支援を行いました。子どもたちが安心して過ごし、自分らしさを取り戻せる場として定着しています。

12年目を迎えた親の会では、不登校やひきこもりの子どもを育てる保護者同士が悩みを共有し、孤立を防ぐ場を継続しました。参加者からは、「気持ちが軽くなった」「子どもとの関わり方を見直すきっかけになった」といった声が寄せられています。また、初めての試みとして、ひきこもり状態にある若者を抱える家庭を対象に、オンラインによる連続学習会を開催しました。半年以上にわたり継続的に学びと対話を重ねることで、保護者が子どもとの関わり方を見つめ直し、安心して悩みを共有できる機会となりました。さらに、県内各地で立ち上がった親の会への後方支援も継続し、地域における支援の広がりを支えました。

ひとり親家庭へのフードパントリー（食料無料配布）は規模を縮小しつつも、緊急性の高い世帯への支援を継続しました。あわせて、山形市から受託している「山形市子ども見守り宅食」では、定期的な食料配布を通して家庭の見守りを行い、必要に応じて相談支援や関係機関につなげました。さらに、2025年7月から新たに「山形市おやこヘルパー事業」を開始し、子育て家庭への家事・育児支援にも取り組みました。学習支援では、フリースクールに通う子どもたちや通信制高校に在籍する若者に対し、拠点型での個別支援を継続しました。学習面だけでなく、日常的な対話や関わりを通して、自己肯定感の回復や進路選択の支援にもつなげています。

また、東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金を活用し、ホームページの全面リニューアルを行いました。支援を必要としている方が必要な情報にたどり着きやすいよう、各事業の紹介や利用方法を分かりやすく整理するとともに、スマートフォンからも見やすい構成へと改善しました。あわせて、寄付やボランティアなど、活動を応援して下さる方々が参加しやすい導線も整備し、より多くの方に当法人の取り組みを知っていただく機会となりました。

2025年度は、初めてクラウドファンディングに挑戦し、多くの皆さまのご支援により目標金額を達成することができました。私たちの活動の必要性に共感し、応援して下さる方々の存在を実感し、大きな励みとなりました。さらに、「家族をまるごと支える」という取り組みが評価され、「第19回 スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト」においてスミセイ未来賞を受賞しました。この受賞は、日頃より活動を支えて下さる皆さまとの歩みが認められたものと受け止めています。

法人化から4年を迎え、活動の周知が進んだことで、企業・個人の皆さまからの寄付や物品提供、体験活動の機会提供など、多くのご支援をいただきました。こうした支えにより、制度の狭間に置かれた子ども・若者やその家族に対し、必要な支援を継続して届けることができました。

以上の活動を通して、多様な背景や困難を抱える子ども・若者とその家族のニーズを的確に把握し、一人ひとりに寄り添いながら、自立や社会参加に向けた支援を行うことができました。今後も地域の皆さまや関係機関と連携しながら、誰も孤立することのない地域づくりに取り組んでまいります。

- ①「不登校・ひきこもりの相談窓口の開設」事業
- ②「若者に居場所を提供するフリースペース」事業
- ③「子どもに居場所を提供するフリースクール」事業
- ④「不登校・ひきこもりの家庭を対象とした親の会開催」事業
- ⑤「地域に根ざした親の会の立ち上げ支援・後方支援」事業
- ⑥「地域住民への理解促進を目的とした学習会などの開催」事業
- ⑦「子ども・若者を中心とした地域食堂の運営」事業
- ⑧「拠点型学習支援」事業
- ⑨「ひとり親、困窮する子育て世帯への支援」事業
- ⑩「子ども見守り宅食訪問支援・おやこヘルパー」事業

※①②④⑤⑥は山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課「令和7年度若者相談支援拠点設置運営事業」として実施。③は自主財源にて実施。⑥の学習会は「山形市コミュニティファンド」の助成にて実施。⑦は中村昂三郎様をはじめとした市民からの寄付金、「赤い羽根共同募金」、一般財団法人 篠原欣子記念財団「フルーツ支援助成金」、「むすびえ子ども食堂基金」の助成により実施。⑧は「エプソン社会の幸せ基金」により実施。⑨森正勝様からの寄付金、こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」、つながり基金プロジェクト様の全面的なご協力のもと実施。⑩は山形市「こども見守り宅食食品調達・宅食訪問支援事業」として実施。

2. 事業の実施に関する事項

事業	業務内容など	実施場所	受益者・成果物
①相談窓口	電話・メール・来所による相談	山形市の拠点	のべ474件
出張相談	年間開催回数: 31回	山形県内全域	のべ99件
②フリースペースいろは	若者の居場所 年間開設日数: 188日	山形市の拠点	のべ2167人
③フリースクールよつば	小中学生の居場所開設日数: 182日	山形市の拠点	のべ967人
④親の会	親の居場所 年間開催回数: 24回	山形市内の公民館	のべ181人
⑤講演会	上田理香氏 講演会 10/18	遊学館	参加者 33人
	鶴田淑子氏 講演会 10/11	山形市総合学習センター	参加者 23人
⑥ひきこもり学習会	6月～1月 8回	オンライン	参加者 150人
⑦地域食堂	年間開催回数: 15回	山形市の拠点	のべ287人
⑧学習支援	拠点型 年間開催回数: 115回	山形市の拠点	のべ372人
⑨フードパントリー	年間開催回数: 12回	山形県内全域へ郵送	のべ126帯361人
ひとり親相談会	年間開催回数: 19回	山形市の拠点	のべ44件
⑩子ども見守り宅食	訪問宅食: 338回	山形市内	のべ327世帯
	食品調達: 583回	山形市の拠点	のべ561世帯
おやこヘルパー	家事育児支援: 55回	山形市内	のべ55世帯

その他

○活動報告 クローバー通信 4回発行 (各500部)

○eスポーツ(年12回) のべ参加人数150人

○体育館での運動イベント(年4回) のべ参加人数53人

○Wordの使い方を学ぶパソコン講座(年19回) のべ参加人数63人

○お泊り会(年2回) のべ参加人数29人

○スケートイベント参加人数14人

○シアターゲームワークショップ参加人数人

○ボードウォッチング体験ワークショップ参加人数人

○野菜収穫体験 2025年6月28日(夏野菜) 7月31日(とうもろこし) 10月21日(さつまいも) (年3回)のべ参加人数28人
(鈴木清司様よりご協賛)